

スパイ糾弾訴訟・弁論終結！ JR総連・黒田政治部長、山下元書記長が最終意見陳述！

傍聴券獲得行動に500名の組合員が結集！全ての傍聴券を獲得！

11月28日、東京地裁において、「スパイ糾弾訴訟」の口頭弁論が行われました。この裁判は、JR東労組の元役員である嶋田一味らが、実名入りの「革マル派リスト」をデッチ上げ、『週刊現代』の誌面に登場すると同時に、JR総連・東労組の内部に革マル派組織が存在するかのようによこしまに



に流布した行為に対し、名誉毀損・損害賠償を求め闘ってきた事件です。嶋田一味のこのような行為は、労働組合を弾圧する警察権力の側に立ったものであり、革マルキャンペーンを助長するスパイとしての役割以外のなにものでもありません。これまで43名の原告団、そして弁護団が中心となり、27回（弁論準備含め）にも及ぶ法廷での闘いを繰り広げてきましたが、今回で全ての弁論が終結することとなります。

本日の口頭弁論では、これまでの闘いの集約的な意味を込め、JR総連・黒田政治部長と山下元書記長が最終意見陳述を行いました。嶋田一味のスパイとしての役割を赤裸々に暴露し、あわせて、「抵抗とヒューマニズム」を基調とするJR総連・東労組の運動が革マル派の方針と戦術とは無縁であること、人間味あふれる闘いの展開により、広く社会に共感を得る闘いを推し進めてきたことを力強く訴えました。

嶋田一味が、まことしやかに主張する「全ての運動が革マル派のために展開され、若い人を革マル派にリクルートするために展開されていた」という主張や、「旅のプレゼント」「ふるさと森づくり」「フレンドシップ」の取り組みなど、社会貢献活動が「革マル派を押し隠すための活動であった」とする



デタラメな主張を跳ね返してきました。次回判決は、来年3月27日10時から言い渡されます。これまでの闘いにより勝利することは明らかです。嶋田一味を許さず断固闘おう！

実名入り「革マル派リスト」をデッチ上げ、

「JR総連・東労組の運動は革マル派に支配されている」と、
風説を流布する行為は、組織破壊を企てる警察権力と同じ立場だ！

『週刊現代』に登場した嶋田一味の役割が赤裸々に！